



石(いわ)走る 垂水(たるみ)の上の さわらびの 萌出(もえい)づる春に なりにけるかも

3月の万葉集 巻8-1418 志貴皇子
(岩の上を激しく流れる滝のほとりの蕨(わらび)が、芽を
ふくらませる春となったのだなあ。)

卒業や進級を前に!

暦の上では、24節気3
番目の啓蟄を迎えました。
東大寺二月堂の修二会
(しゅにえ)の本行も1日
から始まり、練行衆と呼ば
れる11名の僧が15日の
満行を迎えるまで行いま
す。特に、12日の籠松明
が最も有名で、この修二
会が終われば奈良にも本
格的な春が来ると言われてい



ます。
新型コロナウイルス感染症も未だ収束には至らず、高止まり
の状態が続いています。特に10代や10代未満の子どもたちの
感染が多く、学校園においても1月末から2月にかけての感染
拡大に呼応して急激な学級閉鎖等の対応が続きました。3月に
入り、ようやく収まりかけている状況ですが、未だ数校の学校園
で学級閉鎖を余儀なくされている状況です。

そのような中、令和3年度も残すところあと20日ほどとなりま
した。学校園の教室や廊下などには子どもたちの学習活動の
成果である作品などから、子どもたちのがんばった様子がよみ
がえり、一人一人の成長やクラスとしてのまとまりが実感できる
頃となっています。その場その場では、喜びや悔しさなど心動か
ず出来事の一つ一つでしかありませんが、その出来事の連続
が豊かな感性を培い、
自信や意欲につながる
ことになると思います。

この時期、卒業や進
級を前に、「がんばった
こと」「できるようにな
ったこと」を振り返り、一
人一人の努力や成長を
確認したいものです。そのことが、子どもたち一人一人の自尊
感情の向上と自己肯定感の育成につながると思います。

町教育委員会として、これからも「子どもたちのために何が
できるのか」を常に念頭におき、学校園、保護者の皆様、地域
の皆様が一体となってつながりを強め、広陵町の教育を推進で
きればと思いますので、今後ともご支援ご協力をよろしく願ひ
申し上げます。



子どもたちの理解者に!

福島智さんという全盲ろうの東大教授がおられます。現在59
歳の福島さんは健常者で生まれたのですが、幼いときに両目を
失明され、18歳で両耳が聞こえなくなり、成人前に全盲ろうにな
られました。ただ、18歳までの音の記憶が残っていて、自分の声
を聴くことはできないけれど、よどみなく口で発話する事ができ
るようです。その福島さんの著書「ぼくの命は言葉とともにあ
る」の中で伝えたい内容があります。

それは、「理解者の存在」です。外部とのコミュニケーションが
とれなくなり途方に暮れていた福島さんに、目の不自由な友人の
一人が手のひらに「思索は君のためにある」と書いてくれました。
その時、その指文字でコミュニケーションがとれることことを知
った以上に、自分の気持ちを分かってくれる人が、この世の中に一
人でもいたことに心から感謝されたそうです。

私たち人間は、自分を理解してくれる人が一人でもいると生き
ていく力となり、前に一歩足が
出ます。そして「この人に分か
ってもらっているからがんばるぞ!」
と勇気が出ます。そういう意味で
先生方や保護者の皆様が、子
どもたちの理解者になりたいも
のです。



また、福島さんは、「コミュニケーションこそが人間の魂を
支える」とも書いておられます。親と子ども、親と教員、子ども同
士、親同士などそれぞれがコミュニケーションをとるためには、相
手のことに想いを馳せ、寄り添い理解することが最も大切だと思
います。

今月の一言

「やりたいことをノートに100個書
き出した。すると、考えているだけの
時より、行動しやすくなる。心の中で
目標が明確になるので、気持ちがポジティブになれるん
です。」

杉山 愛

プロテニスプレーヤーを34歳で引退した杉
山愛さんは、引退直後、何をすればよいのか
悩んだ中で、やりたいこと100個書き出すこ
を思いついたそうです。どんな小さなことでも
書き出す。その中身は、「屋久島の縄文杉を見
に行く」「富士登山をする」「オーロラを見に行
く」などから「結婚して母になる」「フルマラソンを完走する」な
ど。そして実現したものは項目から消す。一つ実現したら、また一
つ新たな項目を書き足していくという。常に100個の計画で埋ま
っている。「やりたいことが見つからない」などと座り込んで思い
煩うより、杉山さんのように洗いざらい書き出して、できそうなこ
とから身体を動かして一つ一つクリアしていく、このポジティブ人生
は人を常に新鮮にすると感じます。



学校から



東小学校より

卒業を前にすばらしい演奏！

例年、6年生全員が参加している奈良小学校金管フェスティバルが、感染防止対策を徹底した上で、2月26日(土)にさざんかホールで開催されました。これは、1月29日(土)・30日(日)に行われることになっていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、1か月の延期となっていたものです。



普段の練習も十分にできない状態での発表でしたが、子どもたちは心を一つにして「世界に一つだけの花」と「風になりたい」の2曲を精一杯、演奏してくれました。学年の全員が参加しているのは本校だけなので、その誇りを胸に、今まで見守っていただいた方々に感謝の気持ちを込めてすばらしい演奏をしてくれました。

西小学校より

感謝の気持ちを込めて！



もうすぐ卒業する6年生に感謝の気持ちを込めて、全校で「6年生を送る会」を行いました。昨年に引き続き、各学年ごとに趣向を凝らしたメッセージビデオ

を作成し、6年生への思いを伝えました。また、全校で協力して作ったメダルや手紙もプレゼントしました。

卒業まであとわずか。締めくくりをしっかりとして有終の美を飾ってくださいね。

広陵中学校より

花いっぱい 학교を！

広陵中学校では、令和2年度から生徒会執行部や各種委員会(生徒会専門委員会)活動の活性化に取り組み、生徒主体で「よりよい広陵中学校」を作っていくと生徒、教職員が活動しています。

本校の特別支援学級、専門委員会の1つ美化委員会では、緑多く広大な校地を活かすべく校内緑化活動に取り組んでいます。1年を通して、土作り、草花の播種や育苗・定植、水やり等を計画的に実施してきました。市販の苗を購入して定植するだけでなく、直径1mmにも満たない種子をセルトレーに播種して育苗したり、苗を植える際には、市販の園芸用土をそのまま使うのではなく、元肥として腐葉



土や牛糞堆肥を混ぜ込んで土作りをした後に植えたりしています。自分たちで蒔いたそよ風でも飛ばされそうな小さな種子が芽吹き、育ち、たくさんの花を咲かせてくれる姿に生命の尊さを学ぶことが

でき、1年を通して四季折々に花開く草花は、生徒をはじめ、教職員、来校者の方々の目を楽しませてくれ、広陵中学校に落ち着いた学習環境を提供しています。

詩のコーナー

一個の人間

武者小路 実篤

自分は一個の人間でありたい。
誰にも利用されない
誰にも頭をさげない
一個の人間でありたい。
他人を利用したり
他人をいびつにしたりしない
そのかわり自分もいびつにされない
一個の人間でありたい。



自分の最も深い泉から
最も新鮮な
生命の泉をくみとる
一個の人間でありたい。



誰が見ても
これこそが人間だと思おう
一個の人間でありたい。
一個の人間は
一個の人間でいいのではないか
一個の人間

独立人同志が
愛しい、尊敬しい、力を合わせる。
それは実に美しいことだ。
だが他人を利用して
得をしようとするものは、いかに醜みにくいか。
その醜さを本当に知るものが一個の人間。